

## 平成27年度全国学力・学習状況調査分析結果

- ① 実施日 平成 27 年 4 月 21 日
- ② 対象児童 第 6 学年児童 139 名
- ③ 学力分析と課題及び対策

### 全国平均正答数との比較

教科	内 容	設問数	本校児童の状況
国語A	基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題	14	全国平均と比較して、1.5ポイントほど上回っている。
国語B	基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題	9	全国平均と比較して、1 ポイントほど上回っている。
算数A	基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題	16	全国平均と比較して、1.5 ポイントほど上回っている。
算数B	基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題	13	全国平均と比較して、2 ポイント近く上回っている。

上記の表からもわかるように、国語、算数共に全国の平均を上回っています。両教科に対する関心は児童に対する質問紙(アンケート)の結果から見ても高く、関心が高いほど、正答率も高い傾向があるという全体的な傾向と合致しています。さらに細かくデータを見ると、国語では、「話す・聞く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の正答率が7割を超えています。また、今後重視されると考えられる国語Bの「書く能力」の正答率も7割を超えていて、書くことで表現する能力も身につけていると判断することができます。これは、算数Bの記述形式の問題の正答率も全国平均を上回っていることと関連していると考えられます。ただ、割合で言うと、他の項目よりも正答率が低いので一つの課題だと思われます。文章の表現力を高める手立てとしては、初年度から実施している読書教育の充実や、生活科・社会科を中心に各教科で取り入れている話し合い活動において自分の考えを表現する体験を積み重ねていくことなどが考えられます。また、学年に応じた「書く能力」の目標を設定し、個に応じた指導という視点も意識して、指導方法を研究していきます。

話し合い活動に注目して分析すると、本校児童の課題の一つであった「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」という問いについて、わずかではありますが全国平均を上回るようになりました。また、「友達と話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞くことができますか」という問いについても全国平均を上回るようになっています。まだ大きな成果が出たとは言いきれませんが、自分の意見を表現していくという面において、着実に成長していると考えられます。

今回から調査されるようになった理科に関しても、全ての分野で全国平均を上回っています。ただ、観察した事実と関係付けながら考察し分析する力は高まっているとはいえません。実験から考察までを一連の流れとしてとらえられるように指導を続けることによって、事実から考察できるようになると考

えています。本校では、理科支援員がいるので、担任と連携しながら充実した理科学習ができるように取り組んでいます。

#### ④ 生活意識調査から

学力調査と同日に行われたアンケートの結果として、「学校に行くのは 楽しいと思いますか」という問いに「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせると、9割近くになります。学校が楽しいと感じていることをうれしく思う半面、そう思えない児童の理由を考え、改善していきます。

「家の人と学校での出来事について話をしますか」という問いに対しても、8割を超える児童が「している」または「どちらかといえばしている」と答えています。コミュニケーションをとることが大切だと言われている昨今、最も基本的な集団である家族の中で、十分な会話がなされていることは、重要なことであり、また安心できる状態でもあります。

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という問いに対しては、全国平均と比べると、参加していると答えている児童の割合は低くなっています。休日の児童の過ごし方から考えて、特に高学年児童が地域行事に参加するのは厳しい状況にあります。ただ、学校から、地域行事について紹介したり、参加するように勧めたりしてきたことで、地域行事に対する関心は高まっていると考えられます。今後も地域行事に積極的に参加できるようになることを期待しています。

今後も、児童が地域や社会の出来事を肯定的にとらえられるように、学習や体験を工夫し、指導・支援していきます。引き続き、ご協力よろしくお願いたします。